

新

聞

(日刊)

2017年(平成29年)7月12日(水曜日)

鷹山公テーマに新作能

米沢金剛会 舞台現代風 謡で挑む



本番を間近に控え、稽古に励む会員たち

米沢藩中興の名君をテーマとした、現代風の新作能に『謡』で挑戦する公演『上杉鷹山を謡う』は15日午後1時半から、米沢市の伝国の杜置賜文化ホールで行われる。尺八の奏朴な音色が響く中、金剛流能楽の伝承に取り組む米沢金剛会(川合重穂会長)の師範らが現在の言葉で鷹山公の偉業を分かりやすく伝える。

鶴岡市出身で国際融合同文化学会の会長を務める宗片邦義さんが、金剛会文化の会長を務め、代文で原作を書き、金

剛会の川合会長と金子兎さんが謡の節を付けて完成させた新作で、舞いを行わない「謡」として初披露される。

物語は、旅行で米沢を訪れた米国人に市民が上杉神社などの観光名所や鷹山公の業績、生涯について紹介するというストーリー。故

ジョン・F・ケネディ元米大統領が鷹山公を尊敬していたエピソードなどが節に合わせて説明される。せりふに英語が入る、場面に合わせて映像が投影されるなど、伝統的な金剛流の謡にはない新たな挑戦を組み込んだユニークな内容となっている。

公演は三部構成で、メインの謡のほか、第一部では原作者の宗片さんらによる「鷹山公トーク」、第二部では「伝国の杜子ども狂言クラブ」による狂言なども行われる。

このほど伝国の杜能舞台で行われた通し稽古では、出演者たちが謡のせりふや節回しを練習したり、尺八や映像のタイミングを確認したりと本番さながらに取り組んでいた。

・米国人役で出演するアイルランド出身の今井コレットさん(47)

・成島町三丁目には「ゆっくり丁寧」に話せるように頑張ります」、

川合会長は「米沢の観光振興にも役立てていきたい」と意欲を見せている。

入場料が必要だが、高校生以下は無料。問合せは、川合会長TEL(23)1866まで。

『米沢新聞』2017年7月12日記事より